

No. 1269

日米の役割

— 福田・カーター首脳会談 —

4月30日、福田首相はアメリカのカーター大統領との会談に臨むため、羽田から日航特別機で出発した。

「日米両国が世界の平和と繁栄のために果たすべき役割」について積極的に話し合いを重ねようとするもので、福田首相にとっては昨年3月について2回目、園田外相、牛場対外相も同行した。ワシントン郊外のアンドルーズ空軍基地では、クリストファー国務副長官、マンスフィールド駐日大使、グライスティーン国務次官補代理らが出迎えた。5月3日、ホワイトハウスでカーター大統領との首脳会談が開かれた。会談に先だった中庭での写真撮影、カーター大統領が「すばらしい元気ですね」と話しかけると、福田首相は「日米首脳会談を象徴するようです。世界も、日米も、このようであればいけません」と身ぶりをまじえながら答えた。このあと、大統領執務室で2人だけの会談がもたれた。ここでは中国、朝鮮を中心としたアジア情勢の分析や、7月に開かれる予定の先進国首脳会議に向けての国際経済の展望が話しあわれた。

翌4日、日系人会日本商工会議所、日本クラブ共催のレセプションに臨んだ首相はあいさつに立ち、「日米両国が困難な世界経済脱却に協力することで合意したのは大変有意義だった」と語った。この後、一行は国連本部を訪ね、ワルトハイム国連事務総長を訪問した。

福田首相は世界の経済困難を克服するため、日米両国が共同で長期的な資源開発計画を進めたいと述べ、これに対し、ワルトハイム総長は日本のエネルギー開発の努力を歓迎し、またベトナム難民救済のため、日本が一千万ドルを国連に特別きょ出することに感謝すると述べた。順調にスケジュールを消化し、ハワイでくつろぐ福田首相。訪米の成果をふまえ、強気の記者会見をしたものの、しかし、気になるのは国内政局。一週間の日程を終え、7日夜帰国。空港では大平幹事長、中曽根総務会長江崎政調会長らが笑顔で出迎えた。

福田首相の強い要望で開かれたという日米首脳会談。実り多いものにするためにも首相自身の今後の実行力が求められる。